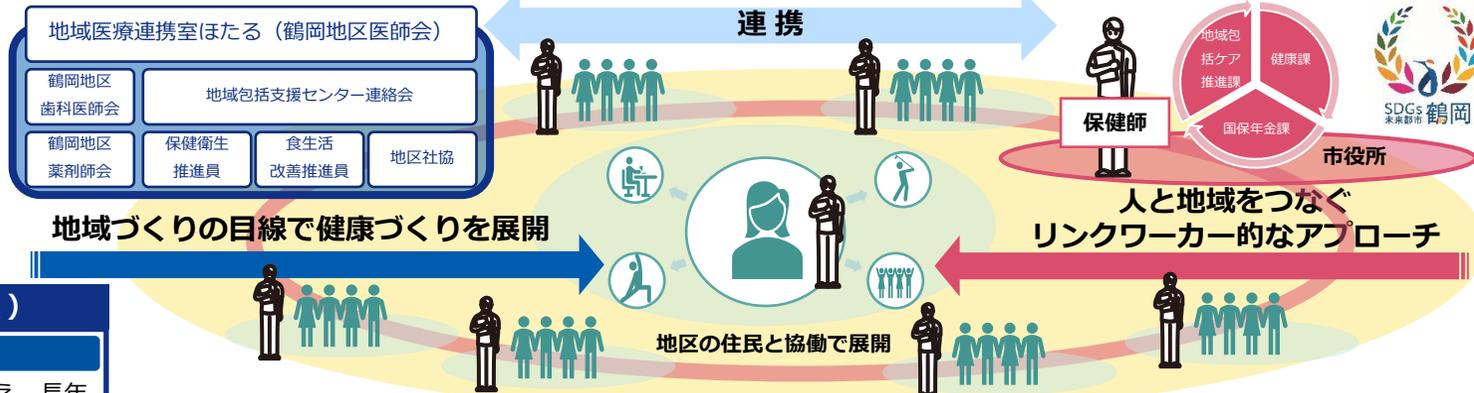


山形県鶴岡市 ー健康づくりから介護予防までシームレスな包括的アプローチー

市の概況 (令和6年4月1時点)

人口	117,821人
高齢化率	36.74%
後期被保険者数	23,761人
日常生活圏域数	11圏域



事業実施全体のながれ (PDCA)

(1) 体制整備【P】

- KDBデータ、ニーズ調査等の既存のデータに加え、長年の保健師の地区診断による詳細なデータを活用している (大学の協力による地区診断の実施)。
- 地域包括支援センターのチーム会議で情報共有、検討等が行われている。

(2) 地域連携体制の構築【P】

- 「地域医療連携室ほたる」が主催する定期的な情報交換の場で、事業説明や事業実施にあたっての協力、情報共有、連携等が行われている。

(3) 事業計画の策定【P】

- KDB活用支援システムを用いた対象者の抽出のみならず、広域連合からの提供を受けたデータを活用し、地区担当保健師や地域包括支援センターのチーム会議で地域情報として確認し合っている。

(4) 事業実施【D】

- 地区担当保健師が地区ごとに事業を展開し、関係者間や地域住民と連携している。

(5) 評価とその活用【C・A】

- 情報交換の機会等を活用し、地域の関係者に助言指導等をお願い、事業評価に生かしている。

ハイリスクアプローチ

- 訪問時のアセスメント結果に応じて、心身機能向上に関する助言に加え、本人のライフスタイルを認め、**社会参加につなげることを意識した助言**を行っている。
- 医療未受診の場合は、訪問後支援として、電話・訪問等で生活習慣改善状況等を確認し、必要時、健診受診勧奨も含めた追加の助言等を実施している。



ポピュレーションアプローチ

- 「65歳からの健康づくり教室」
地区組織と地域課題をグループワーク等を通して検討し、実行委員会体制で健康づくり教室を企画・運営を実施している。
- 「いきいき百歳体操」市内173か所で実施 (令和6年12月現在)
運動、栄養口腔機能、フレイル予防等のプログラムを実施し、効果的な介護予防活動の継続を支援している。

ここがポイント!

小学校地区担当保健師を中心とした公衆衛生の伝統が基盤となっている

きめ細かい包括的アプローチ

- **充実した健康診断**
健診の実施時期を地区ごとに調整し、集団・個別健診の充実 (医師会等との連携) させた。
→ **健診受診率32.6% (R4年度) 県内1位**
- **地区担当保健師による詳細な地区分析**
保健師が担当地区の健診結果や人口構成、特定健診等の受診率などを把握し、状況を分析することで担当地域の状況を確認している。**一体的実施は75歳以上が対象になっているが、担当だけに情報を留めずに庁内の保健師間で情報共有をしている。**

山形県鶴岡市

事業結果と評価概要（令和5年度結果）

アプローチ	取組区分	アウトプット		アウトカム	
		抽出者数	介入者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスク	その他の重症化予防	48人	48人	①保健事業の実施状況(件数・実施率) ②医療機関受診状況（件数・受診率） ③生活改善状況 ④翌年の健診経過等の検査値変化	①アウトプット記載のとおり（実施率：100%） ②医療機関受診状況：17人（35.4%） ③生活改善・行動状況：20人(41.7%) ④健診経過等の検査値変化：48人中区分改善9人（18.8%）
ポピュレーションアプローチ	取組区分	通いの場（実数）	参加者数（累計）	評価指標	状況（評価結果）
	健康教育・健康相談	22か所	1,681人	①参加者人数 ②ロコモ度測定実施地区数 ③運動習慣アンケートによる前年度比較、健康意識行動調査結果比較等	①アウトプット記載のとおり ②ロコモ度測定を20地区で実施し、地区毎・個人毎で結果を把握し、ロコモ予防の意識づけに活用した。 ③運動習慣アンケート(393人に実施)： ・日頃運動している割合77%（前年度74%）昨年度より増加 ・1日合計歩行時間が30分未満の割合50%（前年度49%）昨年度より悪化 ・週2回1回30分以上運動している割合68%（前年度66%）昨年度より増加
フレイル状態の把握	165か所	2,058人	①いきいき百歳体操支援団体数・参加人数 ②新規開始団体数・参加実人数 ③要介護認定率 ④フレイルチェック該当割合（新） ⑤フレイルリスクアンケート結果のKDBデータ・自調査データ比較等	①アウトプット記載のとおり ②12団体169人 ③令和6年2月末時点18.08% ④⑤後期高齢者データを抜粋し、KDB等と比較して ・主観的健康感「よい、まあよい」が高い ・運動機能低下、低栄養、口腔機能低下、認知機能低下のリスクに該当する者の割合が高い ・閉じこもり、ソーシャルサポートに関する項目で、リスクなしに該当する割合が高い	

課題・今後の展望

- 医療受診になかなかつなかりにくく、行動変容などの評価指標も残しておく必要がある。
- 健康への関心があまり高くない方、運動習慣がない方を事業に繋げていけるようにすること。